

人生ハンド仏句

第163号
H. 27. 10. 1
(毎月1日発行)

罪障消滅について

住職 谷川寛俊

私たちは、無限の過去から今日に至るまでの間、生死を繰り返しながら多くの罪悪を犯してきました。自分の行為がもとで周囲を不幸に陥れたこともあったかもしれません。又、周囲の立場を顧みず、勝手な振る舞いをしたことがあったかもしれません。又自分が発した言葉によって周囲を傷つけたこともあったかもしれません。或いは正しい信心をしている人を理解せず、その人を軽蔑したり、その人の信心を妨害したこともあったかもしれません。更に又、動植物の命を食して生きてきた私たちは、

直接または間接的に殺生をしてきました。

故意に犯した罪にせよ無意識に犯した罪にせよ、久遠の過去から積み重ねてきた罪の量は計り知れません。私たちはそれらの罪の量に応じた苦しみを未来世にわたって受け続けなければならぬ宿命を背負っているのです。これが因果応報の道理です。

私たちが信心をする目的は、成仏して浄土の世界に詣でること。つまり永遠の喜びの世界に入ることです。それにはあらかじめ、無限の過去から積み重ねてきた罪を消滅しておかなければなりません。

臭い物に蓋をしたままだと、中にひそむ悪臭はいつまでも消えませんが、悪臭を根元から消すためには蓋を開

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

によって軽く転じる」という意味の言葉です。過去世において犯した重罪がもたらす苦しみを現世において、仏様に仕える功德によって大幅に軽減できるといふのです。つまりお釈迦様のお説きになられたすべての經典の中の王様といわれる法華経・お題目を信仰し唱えることによって(信唱受持)大幅に転重軽受もしくは消滅できるからです。この転重軽受の根底にあるものは、「罪障消滅を速く完了させてあげたい」というお釈迦様の大慈悲心からだったのです。

成仏して真の幸せを得るためには、無限の過去から積み重ねてきた罪に等しい苦を受け続けることで、これまでの罪を清算しておく必要があります。お経の中に「転重軽受(てんじゅうきょうじゅ)」という教えがあります。「重きを転じて軽く受く」と読みます。つまり、「過去世での重罪による大苦を、現世で仏様に仕える功德

